

グランシップ 子どもアート体験! 学校プログラム

たくさん子どもたちに本物の芸術を
お届けする、アウトリーチ活動を
実施しています。



グランシップ 登録アーティスト ミニコンサート

フラウティエ
Flautie

2026年1月20日(火)
静岡県立浜名特別支援学校 中学部14名

静岡県文化財団・グランシップでは、県民の皆様にも多彩な文化芸術に触れる機会を多く持っていたいため、静岡ゆかりのアーティストや国内外の芸術家とともに県内各地へ出向くアウトリーチ活動を、県内の学校や文化施設で、積極的に実施しています。

今回は、グランシップ第2期登録アーティストとして活動する「Flautie」の桐畑奈央さん(リコーダー)、青島由佳さん(フルート)、神戸善子さん(電子チェンバロ)が、静岡県立浜名特別支援学校でコンサートを開催しました。

コンサートでは、数百年前にヨーロッパで演奏されていた音色のまま現代に伝わる「古楽器」が奏でられました。演奏が始まると、会場全体が、古楽器ならではの優しく柔らかな音色に包まれました。

Flautieからの「今の楽器と古楽器、どんなところが違うかな?」という問いかけに、生徒たちは興味津々。楽器を観察してみると、色や長さ、使われている素材の違いなど発見が沢山ありました。見た目だけでなく、音色も今の楽器とはひと味違う。そんな古楽

器のリコーダーやフルートには様々な種類があります。曲に合わせて楽器を次々と持ち替えて演奏することで表情を変えていく様子に、生徒たちも聴き入っていました。ぐつぐつと煮えるお湯の中で茹でられる豆たちを表現した踊りの曲「豆のブランル」。生徒の皆さんも豆になりきって体を動かして楽しみました。リズムに合わせてステップを踏んだり、ジャンプしたり。隣の友達とくっついたかと思えば、また離れた。そのリズムミカルな動きは、まさに鍋の中の豆のよう。

昔のヨーロッパの情景が浮かぶようなあたたかな音色に包まれ、生徒たちは自然と体を揺らしたり、指揮者のように手を振ったり。また、コンサートの最後にお気に入りの楽器を尋ねると、楽器の近くまで歩み寄り、「これ!」と指をさして教えてくれました。遠い時代の音楽と楽器に触れ、目と耳、身体全体で、当時の情景を旅するよう

なひとときとなりました。これからもグランシップは、県内各地の子どもたちが文化芸術に触れる体験を届けていきます。

音がきれいだった。(生徒)



豆のダンスが楽しかった。(生徒)

普段は聴くことができない楽器の演奏会で、貴重な体験だった。(先生)



演奏を聴いたり、演奏に合わせて体を動かしたり、生徒にとって良い経験になった。(先生)